



林野庁「森林整備保全事業標準歩掛」改訂！ ノンフレーム工法が参考歩掛から**本歩掛**へ！

平成28年度に林野庁の「森林整備保全事業標準歩掛」にノンフレーム工法の歩掛が新工法として「(参考歩掛) 鉄筋挿入工(自穿孔)」,「頭部連結併用工」という項目で新設され、ノンフレーム工法が斜面安定工として利用しやすい工法となりました。

本年度(平成29年度)においては、「(参考歩掛) 鉄筋挿入工(自穿孔)」の(参考歩掛)が取れて本歩掛となり、ノンフレーム工法は斜面安定工において一般的な工法として認められました。

最新歩掛は「平成29年度版 治山林道必携 積算・施工編」に掲載されています。

《掲載》

「平成29年度版 治山林道必携 積算・施工編【上巻】」

森林整備保全事業標準歩掛

第1編 共通工

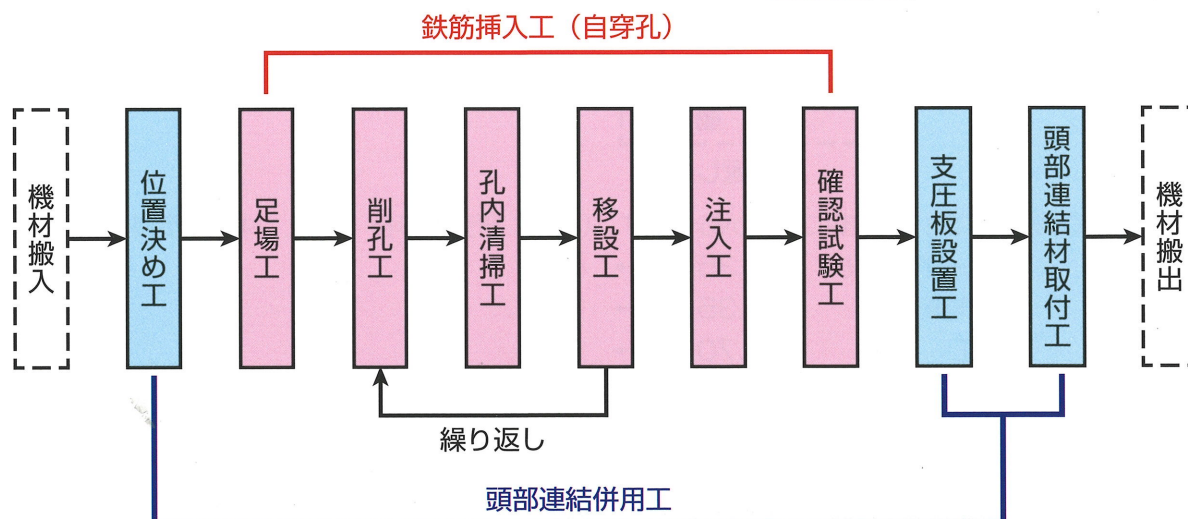
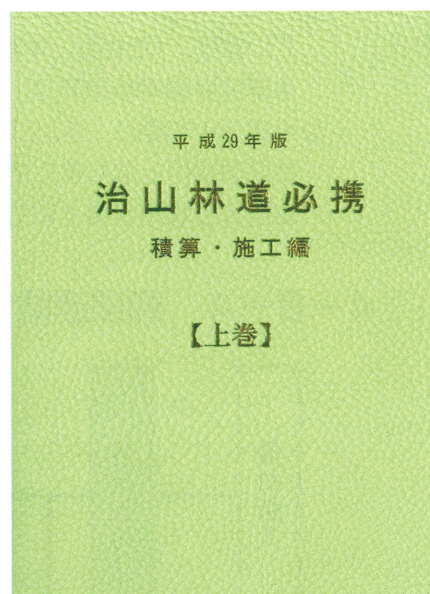
第4 共通工(1)(溝渠工・法面工)

4-8 斜面安定工

4-8-3 鉄筋挿入工(自穿孔)・・・404ページ

4-8-4 頭部連結併用工……………411ページ

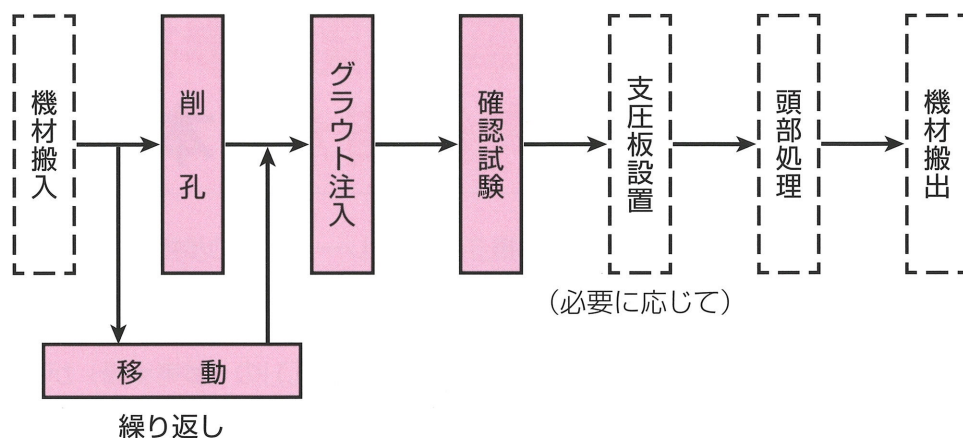
下図は、ノンフレーム工法(自穿孔)の標準施工フローです。
掲載歩掛は、ノンフレーム工法の自穿孔における一連の施工工程が網羅されています。



ノンフレーム工法研究会

標準歩掛との違い

4-8-3 鉄筋挿入工(自穿孔)



◎「削孔工」、「孔内清掃工」、「移設工」が「削孔」として工種が一括されています。

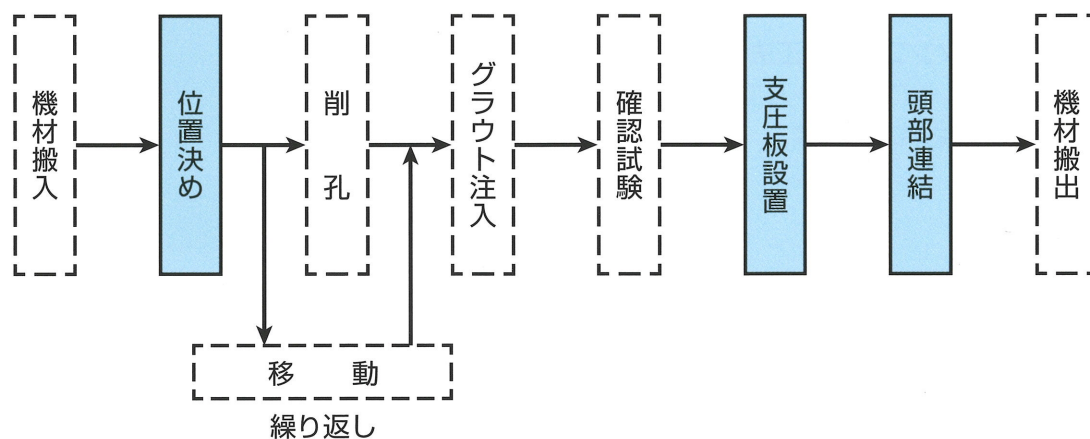
◎「グラウト注入工」において、土質条件に関係なくグラウト注入量の補正係数は、一律0.4が標準となっています。(ただし、本係数を使用することが不合理な場合は別途考慮)

※研究会標準歩掛では、土質条件別に設定されています。

◎平成28年度の「確認試験工」は破線表示(必要に応じて)であったが、平成29年度は実線表示となり必須項目となりました。

※研究会標準歩掛と同じ。

4-8-4 頭部連結併用工



◎「頭部連結」の歩掛に差があります。(※右；研究会歩掛，左；林野庁歩掛)

土木一般世話役 : 0.35人 → 0.24人

特殊作業員 : 0.35人 → 0.38人

法面工 : 0.70人 → 0.77人